

相談支援従事者現任研修標準カリキュラム

科目		獲得目標	内容	研修形態 時間数
1 障害福祉の動向に関する講義(1.5時間)				
(1)	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法等の現状	障害者総合支援法等に関する最新の動向、障害児者及びその家族等の地域生活を支援していくにあたって、関連する制度等を理解する。	・障害者総合支援法等の改正等の状況やその他関連施策の最新の動向に関する講義を行う。 ・介護保険制度の対象となった障害者に適切な支援を提供するために必要な制度等の知識について講義を行う。	講義 (1.5時間)
2 相談支援の基本姿勢及びケアマネジメントの展開に関する講義(3時間)				
本人を中心とした支援におけるケアマネジメント及びコミュニティソーシャルワークの理論と方法				
(1)	個別相談支援 (意思決定支援に着目した個別相談支援)	相談支援の基本姿勢等を再確認するとともに、個別の相談技術と地域援助技術の役割とそのつながりについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人を中心とした支援における個別の相談支援の基本姿勢(①共生社会の実現(ノーマライゼーションからソーシャルインクルージョン)、②自立と社会参加、③当事者主体(本人中心支援)、意思決定の配慮、④地域における生活の個別支援、⑤エンパワメントなど)について再認識するとともに、ミクロ及びメゾレベルからマクロレベルに焦点をあてた視点等を含む地域を基盤としたソーシャルワークの理論と実践方法について講義を行う。 ・障害に理解にあたっては社会モデルを基本とすること、医学モデルの位置づけを実践の振り返りから確認する。 ・基本的視座として、本人の生活の場で展開される援助、援助対象の拡大、予防的かつ積極的アプローチ、多職種連携(チームアプローチ)、ネットワークなどについて解説する。 ・具体例として、(自立支援)協議会を活用した個別事例の支援からの地域課題の把握、課題の共有、課題解決に向けた地域づくりや資源開発のための協議、地域への働きかけや政策的な提言に至る一連のプロセスと相談支援専門員の役割について解説する。 	講義 (3時間)
(2)	チームアプローチ (多職種連携)			
(3)	コミュニティーワーク			
3 人材の育成の手法に関する講義(1.5時間)				
(1)	実践研究及びスーパービジョンによる人材育成の理論と方法	・相談支援専門員の人材育成方法としての経験から学ぶ省察的思考の重要性について理解する。具体的な実践方法として実践研究及びスーパービジョンの理論と方法について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実践に基づいた事例研究(実践研究)などによる経験から学ぶ省察的思考の重要性とその効果を高めるスーパービジョンの役割について講義を行う。 ・実践研究の理論と方法について理解するための講義を行う。実践研究の具体的な意義と目的として、①実践例を深める、②実践を体験する、③援助の質を向上させる、④援助の原則を導き出す、⑤実践を評価する、⑥連携のための援助感や援助方針を形成する、⑦援助者を育てる、⑧組織を育てる等について解説する。また、実践研究の基本的プロセスと留意事項について解説する。 ・人材育成におけるスーパービジョンの理論と方法について理解するための講義を行う。(教育、支持、管理の各機能についての解説及び個別、グループ、ライブ、ピア、セルフ等の実施の方法とその長所・短所等について解説する。) 	講義 (1.5時間)
4 相談支援に関する講義及び演習(18時間)				
(1) 個別相談支援とケアマネジメント(6時間)				
①	個別相談支援(セルフチェック)	・本人を中心とした個別の相談支援の実践に必要な相談支援の技術について説明できる。 ・自身の個別の相談支援実践について振り返り、維持・向上すべきことに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の相談支援における関係性の理解、自尊尊重などについての自己覚知を行い、①信頼関係の構築、②意思決定(本人を中心とした支援)、③モニタリングの機能について再確認し理解を深めるための講義を行う。 ・上記講義を踏まえ、自身による個別の相談支援の実践についての振り返り及び自己評価を行う。自己評価により維持・向上すべき技術等についての気づきを得る。自己評価を他者と共有することにより気づきの幅を広げる。 ・各受講者の相談支援実践例を活用し実践研究を行う。実践例の支援経過に対して、①本人の意向が明確になり優先されているか、②本人の言葉の意味が吟味されているか、③支援者の都合が優先されていないか、④多職種連携が適切に図られているか、⑤既存の社会資源だけで調整されていないか、⑥結論に誘導するような支援になっていないか等について、自己評価を含め、総合的な視点で検討する。 	講義 (1.5時間)
②	実践報告	・個別の相談支援の実践例を振り返り、検討することで個別相談支援の能力の向上を図る。		演習 (2時間)
②	実践報告			演習 (1.5時間)
実習				
1	課題実習	基幹相談支援センター等にて自らの提出課題をチームで検討する。		
4 相談支援に関する講義及び演習				
(2) 相談支援に求められるチームアプローチ(多職種連携)(6時間)				
①	チームアプローチ	他の多様な職種に対する理解・尊重に基づいてチームを組織し、円滑に機能させるための講義の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者及びその家族の支援に対し、チームアプローチの意義を再確認するとともに、チームマネジメントの技術を向上させるための講義を行う。 ・上記講義を踏まえ、自身によるチームアプローチの実践についての振り返り及び自己評価を行う。自己評価により維持・向上すべき技術等についての気づきを得る。自己評価を他者と共有することにより気づきの幅を広げる。 ・各受講者の相談支援実践例を活用し実践研究を行う。実践例の支援経過に対し、チームアプローチに際し、チームを組成する各種の専門性と各々に求められる役割を理解するとともに、チームにおける相談支援従事者の役割を理解し、利用者の意思決定に配慮したチーム運営において想定される課題や対応策を含め、チームを円滑に機能させるために必要な知識・技術を向上させるための協議を行う。 	講義 (1時間)
②	実践報告			演習 (2時間)
③	実践報告			演習 (1.5時間)
実習				
2	課題実習	基幹相談支援センター等にて自立支援協議会の参加体験		
4 相談支援に関する講義及び演習				
(3) スーパービジョン				
①	スーパービジョン			講義 (1時間)
②	GSV(ロールプレイ)			演習 (3時間)
③	GSV(グループ体験実習)			

(4) 地域をつくる相談支援(コミュニティワーク)の実践				
①	コミュニティワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・地域をつくる相談支援の実践に必要な価値、知識、技術について理解を深める。 ・自身の地域を作る相談支援実践について振り返り、維持・向上すべきことに気付く。 ・地域を作る相談支援の実践例を活用し検討することで地域援助の能力を獲得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の個別のニーズから地域課題を見出し、地域課題の解決に向けて、利用者個人を支える地域をつくるための地域への働きかけや地域支援ネットワークの構築と活用方法の理解を深めるための講義を行う。 ・上記講義を踏まえ、自身による地域をつくる相談支援の実践についての振り返り及び自己評価を行う。自己評価により維持・向上すべき技術等についての気づきを得る。自己評価を他者と共有することにより気づきの幅を広げる。 ・各受講者の相談支援実践例を活用し実践研究を行う。実践例の支援経過に対して、①地域課題が個別支援から見いだされているか、②地域の特性が把握されているか、③課題が明確化されているか、④課題が地域の中で共有がなされているか、⑤課題解決の優先順位が明確か、長期、短期の目標が設定されているか、⑥誰が何を担うかなど具体的計画が策定されているか、⑦既存の社会資源を十分活用できているか、⑧欠けている社会資源について政策提言など社会行動ができているか、⑨計画の達成度や自身の活動について評価できているか等について総合的な視点で検討する。 ・障害のある相談支援従事者との連携体制の必要性と連携意義について具体的に検討する。 	講義 (1時間)
②	実践報告			演習 (1時間)